

251101 特別史跡名古屋城跡全体整備検討会議石垣・埋蔵文化財部会（第68回）
名古屋市民オンブズマンによるメモ

会場内写真・ビデオ 出席者紹介まで
（マスコミ0）

11:10

姫野保存整備課長：はじめる

渡辺所長：4つ議題 報告題1つ
午前午後お昼をまたいだ形

姫野：出席者紹介 北垣、宮武、千田、西形、梶原
オブザーバー 小野
教育委員会、名古屋城総合事務所
写真・ビデオはこれまで
資料確認
資料1参考資料は構成員のみ
座長一任

北垣：議事1 事務局から説明を

名古屋城：二之丸庭園
発掘調査
整備

名古屋城：整備
参考資料 余芳周辺

高橋：遺構の保存方針
整備工事 埋蔵文化財担当学芸員が立ち合い
文化財保護課にも立ち合い
山砂がでるまで掘削可 近世構築まで

11:27

北垣：ご意見いただけたら

千田：説明ありがとう

発掘成果に基づいて修景
二之丸庭園を残す 遺構保護層をとって整備を
庭園の植生を再生 重要に
本来の遺構面を守るように 大変良く分かった
御庭の整備 本物の御庭を壊す？過去にはあった
最終的には水を入れるのか？なし？ 適当にたまってる？

名古屋城：北園地の水 絵図には水
たたき 近世かどうかの判断が分かれる お示しできていない
絵図を忠実に再現 なんとか水 引き続き検討したい

千田：イメージに関わる 発掘調査 導水装置は見つかっていない？

名古屋城：現在見つかっていない

千田：絵図では水がある
現実どうだったか
検討してしかるべく復元を

宮武：現地を見た外延の説明はあと？

名古屋城：御庭はいまの議論で

名古屋城：発掘調査の現場 成果はあらためてご報告させていただく

宮武：今日現場を見た
外苑調査区 二之丸庭園本体
南蛮堀痛み 外縁部
背面 裏栗層がまったくない
外側の石垣立面 外延 かさ上げた
数メートルあげた 裏に栗入っていない
外の石垣 改築わかるか
現実 通水装置がない 湿気で痛む
備える
地下埋没遺構をどうするか
調査区開いている 保全方法を検証する時間が必要
驚いた 庭問題に目
迎涼閣

資料4 図3-6

迎涼閣の真下に船着き場がある

これを見下ろす

上の空間を見ててもわからない

北側に遊びの装置

巨視的な形 外縁部ではなく、庭の機能の根幹
きちんとした評価を

名古屋城：気になり、発掘調査 石垣面

カルテ上積みなおしの痕跡がない

おそらく積みなおしを想定しないと

見直しが必要

その際も含めて議論

北垣：他に

千田：庭園の整備 これから

絵図 庭園周辺 飛び石が使われていた

健全者 ころんじゃいそう 注意を要する

どこまで人を入れて、入れないか

石橋の上は客を入れない？

歴史的な園路再現 バリアフリーは厳しい

車いす 入ることは難しい

接道を確保を考えて

お庭の飛び石そのものも構成要素

バリアフリーのためになくすのは適切か 庭園部会で議論を

結論は分からないが、本来の庭園を復元する 相応の制限がでてくる
やむを得ない？

別の方法で庭園そのものを体感するにはできるのか？検討して

一義的にはなるべく多くの人が体感を

完全にはできないのではないか

視覚に障害 庭園の様子感じるのは難しい

縮地模型 手で触って

本来の庭を残す それと合わせて検討を

北垣：ほかは

宮武：3 ページ 築山 区画状遺構、基壇状遺構とは

名古屋城：権現山 東照宮遺構

1 ページ 石段の左 近代に崩された 盛り土した
権現山

千田：権現山の上 すでに整備されている

北垣：障害者に対する配置 配慮を

梶原：二之丸庭園発掘調査

外縁 整備検討？

名古屋城：もちろん 配水が微妙

梶原：調査区 西側

きちんと評価して今後

石垣 多くの情報を得て

北垣：ありがとう

この件は以上

今後の調査に期待

搦手馬出周辺石垣修復

11:46

名古屋城：趣旨

復元時代の設定 これまで示していなかった

江戸時代後期 保存活用計画

御つき屋はない

バリアフリー、緊急車両通行、排水機構等にも配慮

3 尺 舗装の色を変える

現代の城にあうように

史資料

11:51

北垣：ご意見を

宮武：手続き

石垣 曲輪内部 修景整備したことあるか

西の丸の蔵くらい？

名古屋城：蔵くらい

宮武：特別史跡内 曲輪内 はじめて
保存活用計画にのっとって 慎重に
これが規範になる
芝を刈る 通るところ
別の空間で別のやり方をするとちぐはぐ
本来はゾーニングがなされる 各区のやり方
イレギュラー ほかに適用される
無計画で走るのは心配
復元時代のルール 意識は持っていると思う
全体に普遍化 意識を
ちょっとイレギュラー

千田：タイトル「修復について」間違っているのでは
石垣の修復ではない

名古屋城：石垣にともなう天端修景 一体
いままでのタイトルで

千田：なにかちょっと まずそこ
石垣をどうするではなく、本文にはあるが「馬出を特別史跡として
本来の機能をどうわからせるか」
基本方針をはかりたい
時代設定は幕末 異論がない 全体の保存活用計画でもそう
「修景整備の方針」はいかん
・修景整備
・復元的整備
・立体整備
どうするか→修景整備するならこう
馬出そのものは広場空間 入るときに枡形構造と門
堀の外 大きな空間 馬出の必須
☆機能が分かる 整備の要件として大事
検討が曖昧 十分示していない
合わせて、石垣が今年度末には完成
実際には櫓には立っていない 隅の櫓

多門櫓を建ててもよい
人を上がらせるのか
上がらせるなら、門の構造 どう馬出
本丸南馬出 大正に埋められた
守りを固めていた
整備は大事
「整備の方針」をたてて、何を示したいのかをすべき
バリアフリーもそう
緊急車両
本丸南
表二の門 はしご車 通りにくい
大きなものは無理 入っていくルート確保しないといけない
・「馬出を表現する」枳形をわかるように
・緊急車両通る
矛盾する要素がないか
本来枳形は立体が望ましい・・・緊急車両要件が満たせない
→こう考えたい
結果的にこう整備してはどうか
基本的な考え方をご議論いただきたいのか？

名古屋城：ご指摘な通り

千田：今後は整備予定を
いつ平面整備するのか スケジュール感は

名古屋城：来年度入って着手したい

千田：工事したい 今年度内に実施設計したい？

名古屋城：難しいが頑張りたい

千田：間に合うのか

北垣：大丈夫か？

名古屋城：現状変更をだして できれば

宮武：あと何回年度内に部会があるのか

現場見る時間がなかった
江戸時代後半したい
いろんな時代ごっちゃ
あと2回、3回
設計して できるのか

北垣：小野先生

小野：文化庁

搦手馬出 保存修理事業として進める
全体の城跡 天端どう仕上げるか 検討・審議してから
過程において、現状 保存修理 最終形態どうするか
将来的 馬出空間 齟齬がない 全体機能有用整備を見越して
どうF I Xするか
順調にあって、来年度まで事務局みとおし
部会で議論して仕上がって補助事業 採択されれば事業実施

千田：来年早々 いつまでに書類？

小野：いくつかタイミング 技術的なこと
名古屋市がいつ出すか

宮武：支障がない状況があれば文化庁は採択する

小野：そう

宮武：何回部会があるのか

姫野保存整備課長：本日 発掘調査見てもらえなかった
方向性も示していない
さらに
今申し上げたスケジュールは難しい
着実に進めたい

宮武：「がんばってください」で終わらせるわけにはいかない
現計画ではいつ終わるのか

姫野：来年度の予定

宮武：その段階で無理

計画再整理

庭園部会 丸山先生 植栽

解決していない

全部終わらせるには何回部会しないといけないか

早いところ

あと１年度では終わらない理解

姫野：何が足りないか

どの部会

文化庁に現状変更許可手続き

部会回数 いつ開くか

しっかり工程を考えないと

早急に考えたい

北垣：各委員から出されたご提案で尽きる

文化庁 方向性出している

千田：小野先生

石垣修復 そのあと修景

手戻り等がないように

本年度未完了 石垣修理工事

石塁の上にあげるのか

あげるならルールを決めて

修理工事 土手をつくって、修景で崩すのはどうか

小野：どこを線引きにするか

整理して 手戻りなく

将来資するように

今回 保存・修理 修理前に戻す

現場そのままではあまり

最低限納め方を考えて

今考えること、将来考えるべき

事業 補助事業として手をあげて

北垣：12時10分を過ぎた

午前中会議 これくらいで

西形：本丸搦め手修復のことでいいか

終了近い 足場がかかっている

撤去された段階で、石垣測量 3D計測していただく計画はあるか

名古屋城：もちろん計画している

足場あると阻害

とれたらドローンなどで計測

来年度中をめど

西形：17メートル 高台石垣

設計 問題があった

石垣根っこ安定性

3D計測 精度の高い方法を

2年3年後 石垣全体変状 悪い変状だけではない

安定性に向かう動きもあるかも

高い石垣 荷重が大きく作用しているはず 予想

分かる精度の高い測量を

名古屋城：2－3年後も視野に

西形：差分を

名古屋城：了解

北垣：それなりの語りが出てきた

しっかりすすめて

時間になったのでお昼休憩

再開は13時で

12:17

13:00

北垣：1時から 後半戦に入りたい

梶原先生用を足している 先に進めたい

事務局から

できるだけ簡便に

名古屋城：資料3 天守台及び周辺石垣の保存対策

S10、U66

修正点 表Ⅰ 黄色着色

範囲④ 動線ではないが、有事の避難方法検討等

名古屋城：前回 鵜の首部分 布団籠で

今回 考え方の説明

2 ページ 鵜の首 通路としての役割

重要な観覧者動線+御深井エリアに大型緊急車両に向かう唯一のルート

ア 動線を維持し、早期の地震対策を求める

(ア) 期間 短期・中期的な対策

(イ) 考え方 地震対策が必要

将来にわたって意向を保存し維持 警官への影響が小さい 可逆的な工法

3 ページ ネットによる落石保護 布団籠

参考：将来的 長期対策

・伝統工法+現代工法による積み替え

・ブリッジ 歩行者用のブリッジ

4 ページ まずは石材補修・間詰石の補充

石垣の前押さえ 布団籠で

解析で有効

S10 は全面

U66 は鵜の首北側

5 ページ 石塁タイプによる割増

常時 おおむね安定

大地震時 石垣が不安定となる

6 ページ 円弧滑り解析

現状の解析（未対策）

7 ページ S10,U66 常時 1.5 を下回り NG

大地震時 1.0 を下回り NG

8 ページ 布団籠

9 ページ 安定計算結果 常時 評価としては OK

大地震時 評価としては OK

地下遺構への影響少なくなる 景観への配慮

10 ページ

11 ページ 詳細設計

12.13 ページ

14 ページ 石材補修・間詰石の補充

千田：前押さえすると決めていない 奇妙な提案

短くやって

名古屋城：16-18

説明は以上

13：18

北垣：ありがとう

千田：石垣部会 工法決定していない

「これしかやりません」提案として間違ってる

図面 きちんと作ってもららないと議論できない

言っていることの図面に反映していない（バン）

現地行っていない 図面として要件がなっていない

提案 安全として提案となっていない

工法的にこれこれがある どうですか？が名古屋城に求められている

石垣保全 ほかは定着している 名古屋城でも部会で提案してきた

「これしかない」提案して、議論の余地がない

所長、どういうことか

渡辺所長：資料 正確性を欠いた図面すみません

対策方法 工法について部会で決定していない

これで決めるわけではなく、先生の意見を聞いて

いただいた議論 3ページ対策 させていただいた

解析を踏まえて有効性を示して

布団籠 踏み込んだ内容示した

これありき 決定ととらえかねない内容は申し訳ない

材料 ご審議・ご指導を

北垣：千田先生おっしゃったことにつける

議論するには、事務局 どういう考えで提案するか 説明しないと

これは「こうやっていきます」事務局案に見える

こういう出し方はよろしくない

順を追って、専門用語がでてくる

いままで見たことない部分もある ひとつずつ説明をして

そのうえで感想は

宮武：千田先生ご指摘がなければ、重要な問題棚上げしていくんだと聞いていた
説明がなかった

「鵜の首 3 ページ 時代的评价が抜けている」
修景整備ゴール 江戸時代後期
名古屋城が生きていたころにあわせる
鵜の首は濃尾地震後に積み替えられた
認めるかの議論を逃げてとりあえず布団籠で押さえる
技術的に可能か
こいつをどう扱うかの議論をやってから
すっとんでいるのが残念
軍部が入ったり、大正期、江戸時代以前 あちらこちら散らばっている
それぞれ不安定
リトマス試験紙 いい加減にするか 瀬戸際

名古屋城：名古屋城全体の石垣評価 議題に関わってくる 近代に積み替え
石垣の不安定さ 2 年前から指摘されている
安全性確保 至急しないといけない
3 ページ 今回考える 短期的・中期的対策
長期的対策 積み替え、ほかの方法を見据えながら
外せば現状に戻せると考えた

宮武：それのお話 3 ページ 参考と矛盾
明治の名古屋城の石垣 危うい→積み替えて名古屋城に戻す なぜ参考に？

名古屋城：石垣保存方針を定めて それに従って
積み替え 難しい工事になる ここ数年で積み替えるのは拙速

宮武：事業上の都合でそうしましたとしか聞こえない
「時間がかかるから押さえる」では困る

西形：工学の人間 あたまで回っていなかった
短中期 名古屋城の価値 考える必要がある
工学的立場から結果を見せていただいた
短中期的である 押さえ盛り土 工学的には簡便で、次の段階 対策しやすい
簡単に除去できる 蛇籠で押さえる 工学的には妥当
石垣安定性 文化庁が示した耐震マニュアル 示力線法
地震時グリーンの線 上が膨らんでいる 高いくらいまで押さえれば不安定が
対応できる
地盤全体としての安全性 円弧滑り 上にカウンターウェイトを置こう
対策法は大きな問題はない

1点だけ これだけのカウンターウェイトを置いて、下の地盤は大丈夫？
N値5以下 軟弱
もし対策案を考えるなら、その点の検証を
ほかに対策法 どういうものがあるのか
積み替えあるが、基本的は積み替えしないという方針
もしあるとすればどういう対策があるのか
もう一度考え直す必要がある

千田：そういう議論をする必要がある 手順としては
工法としては安定性確保できるだろう
景観影響 断面 異なっている
3 ページ 提案と違っている
3 ページ検討が意味をなさない
歴史的景観 この工法でいいのか？検討しないといけない

西形：いかがか

名古屋城：3 ページの絵 分かりやすい一般的な図
支持力 算定式で

北垣：最初からこういう形を出された
伝統技術としての城郭石垣を見ている
その中で、いろいろな対策 どういうことが考えられるか
「地盤工学側の立場だと、自然に優しい対策が考えられるのではないか」
伝統技術の側から、宮武先生がおっしゃられた 現状の状況が多様な状況
そのところ しっかりと分析する必要がある
こっち 不足しているのでは
示力線 現代工法としての考え方 伝統技術には言葉はない
代わるもの のり勾配 のりあやし勾配でてくる
示力線に非常に近い 構造的に語れるのか
もう少し伝統技術 勉強しないと
それなしにぱっと出してくるから、はじめからこれでやるの？それはないだろう
根の部分 長くとっている 1間分 のりが小さくなっていく
もう少し勉強してもらって
示力線 高石垣になればなるほど延長部分がゆるやかになる
どういう安定性が生まれるか 調べて
西形先生が言われる、現代工法で見たら安定性を加味していく提案
伝統技術 その辺を理解を深める作業をすべき

その中でこういう話が出るなら一つの進展
そういう過程がなく、突然これが出てくるからどうか

宮武：先ほど私の発言が原因 先生が話
事務局に話をするとすれば、伝統技術
U66 江戸時代 S I O 明治時代 同等に扱っていいのか？
江戸時代 継承していない石垣だと承知していても守るのか？
事業大変 石垣難工事になる？どういう根拠？
近現代遺構 非常に不安定おいてある
座長が説明 伝統技術で復元対象 多くの江戸時代石垣
どうするかの議論をせずに前を押さえる 時間がないから
濃尾地震 従来の技法とは違う 押さえる
古い技法に戻してやるのか？
議論せずに参考にしている
布団籠 仮設か？ 時間があって、しかるべき時期に
一般整備で仮設はない

名古屋城：布団籠 仮設というか、短中期的にはこの形
長期的には検討

宮武：じゃあ仮設

名古屋城：補助金がない そういった形
石垣そのものの内容を深めないと
安全性の確保を第一に 名古屋市としてはどうするのか？
このような形で
まずは安全性を確保する

宮武：整備目的以上に、不安定要素をなんとかしたいのか？

名古屋城：そう
伝統工法＋現代工法 様々な検討、発掘調査 時間がかかる
安全性の確保を最優先 補助金は無理と考えている
名古屋市単独で考えている

北垣：他に意見は

千田：流れ また提案を

もう一度ここで何を守りに行くのか 要件整理を

一般的に石垣を崩れてしまうのを防ぐ

- ・文化財毀損を防ぐ
- ・近現代の石垣 改変 扱いをどうするか 整理行われていない
- ・お客様安全を確保する

「石垣が崩れて築石が落ちて当たる」場所ではない 堀底に落ちる 人ではない

直下を歩くわけではない

現実問題として、広報提案 別動線 ブリッジ新設 歴史的景観が一部阻害される

史跡にそぐわない工法 意図的にされている

布団籠 歴史的景観をめちゃくちゃにぶち壊す

自分たちがやりたい工法を下駄をはかせるのはよろしくない

客観的に 3つの要件

熊本城 特別見学通路 歴史的なものではない

新しい魅力を作り出している 気持ちよくアクセシビリティ だれもが本丸まで行ける

仮設的なもの 城そのものの魅力創造

単に危ないのをなんとか ではない

「これしかない」提案にあったかどうか

石塁 鵜の首 上にブリッジ

石垣 崩れるかもしれないが、人命には関係ないが網をかけて

国の特別史跡事例もある

地中は掘りこんでいない 大きな特別見学通路 供用している
蛇籠式 前後ろを押さえればいい

大天守、小天守を結んでいるところ 石塁型

こういうところも 将来的に公開する

大天守の北東側 土橋 両側石垣 城内に少なくない

鵜の首取った工法 名古屋城採用工法 考えて提案しているのか
鵜の首はとりあえずこれで？

一貫性を持った提案なのか？

これしかない提案「そうとしか思えない」資料 他の工法の資料
大甘な採点

石垣 どのような石垣で、今後どう取り扱うか

判定がバラバラだ 保全状況 バラバラなもの 避けるべき

検討をしたうえでどういう工法で行くか

蛇籠 安定性確保 これしかなければそうか

いくつかの手順や検討をしたうえで

あらためて検討してすることでしょうか

北垣：千田先生がまとめた 最終的にこういう考え方 それ以外手だてがあるので
は

城郭の石垣をやっている できるだけ対策を考えて まず出して
やむを得ない場合 その時に検討しないと
今日の出され方が請求すぎた
時間の関係もあるが、4番 提案で
もう一度次回 千田先生言われたように出していただく どうですか

渡辺所長：ご指摘いただき 性急

これでなんとかお願いしますではない
整理、対策、工法ごと 客観的に
今一度深めたうえでどれがいいのか整理してご指導
私どもとしてはどう考えるか 案として提案したい

北垣：よろしく

小野：文化庁から 今回の鵜の首 今後
議論の論理の進め方 資料に基づきリクエスト
史跡の保存、適切な維持管理

(3) 議論スタート

観覧動線、大型緊急車両が どういうスペックが通れない？

北 ギリギリ通れないので鵜の首になんらかの手を
検討したうえで

最適解がこれ 議論の積み上げが必要

長期的 ブリッジ新設 西側 そこなんですか？

ルート設定

観覧、防災 合理的 まずがコンセンサス

2ページ

3ページ 景観、可逆性 将来にわたって

S I O U 6 6 だけでなく、名古屋城全体 寄与するのか

このままいくわけではない 布団籠 13ページ S I O 布団籠

外側の内堀 ウエイトの評価

総合的な遺構 評価できているか

引き続き議論を積み上げて 史跡にとってよいように

北垣：ありがとう

千田：名古屋市「補助事業ではない」
普通は補助事業で文化庁と調整する
市民の税金 効率的に使っていただく
先ほど 搦め手馬出タイトルと内容が違う
タイトル 鵜の首の議論 ずれていないか
真剣に考えて
補助事業でも、なんかありますよね

小野：今後名古屋市と協議させていただく

北垣：時間があるので、(4) 石垣保存方針策定について

14:09

名古屋城：第1章から第3章1節

今回指摘修正

一度議論いただき、第3章2節、第4章1節2節前半

前回からの修正内容

第1章2節

3節 近代石垣の取り扱い

1 ページ右側 表2 本質的価値構成 近世

歴史的経緯を示す諸要素 近代

個別事例ごとに判断する

石垣を4つ案 エ

①近世築造石垣 対象

②近代築造石垣・積みなおし 個別に検討 近世石垣と一体となっているところも

るも

保存の対象に 一部近世期の姿に復元することを妨げない

③現代に積み直された石垣 近世石垣と一体となっているところも

保存の対象に 一部近世期の姿に復元することを妨げない

④現代築造石垣 対象外

ここまでで議論を

14:15

北垣：ご意見を

宮武：蒸し返す 2 ページ②近代どうするか

近世期の姿に復元することを妨げない

鵜の首はこれに乗っているのか？整合しているのか

名古屋城：議論の中 鵜の首 S I O 積み替えるのか

活用保存方針で定めて S I O 積みなおすなら積みなおす
それまでの間に 定まらない間に触るわけにはいけない

宮武：ばっさり参考にした

名古屋城：今回はそう

宮武：そこが乱暴 当てはまっているか議論せず、参考にするのはおかしい
ここからスタートしないと

「だからこれです」ださないと矛盾する

これからの石垣 江戸時代以外 不安定 どうするか これが憲法
すべて近代以降石垣 1種類ではない

旧材転用、積み方も近代独特、江戸時代のようなもの
パターンにあわせて 資料にのっとして
今は近代化どうかで分けている

千田：いくつか具体的に提案したい

今は細かいことがわかっている

将来的に世代が変わればわからなくなる

文章を明確化

②近代 見えない箇所も含め近世に築造された

軍隊時代に積んだ石垣 はじめて積んだものも

「現状で地表で見えない」

「近世に築造された石垣と一体となるものについては」

③現代 なに見えないか

搦手馬出 江戸時代に戻すのは当たり前 搦め手馬出に限らない

「きちんと修理した石垣は準じる」

北垣：他には

梶原：顕在をはかるとは

宮武：修復した石垣をどうするか

「城郭石垣を安定化させた石垣」

目的ではないものが入っているから

城のために健全化どうか
共通理解が立てやすい

千田：意見が違っている
搦め手修復以前の名古屋市石垣修復はとんでもない

宮武：逆もある

千田：ご注意ください

北垣：両委員の意見を参考に

14：24

名古屋城：第3章2節 資料4 20ページ
石垣修復履歴
27ページ以降
近世を中心に不明なところも多い
履歴は完成とせず
最後 第4章 45ページ以降
石垣の現況と評価
石垣の現況とカルテ
57ページ 評価方法
来場者の安全面
y1 石垣の下を通る
y2 石垣の上を通る
評価は次回以降

14：29

北垣：意見を

千田：積みなおし 資料まとめた
近世初頭 小天守周り 積みなおしている
入れておいて
41ページ図3-11 凡例位置直して
石垣カルテ作成例 緑丸 間詰石抜けている 図中
抜け 見えない
丁寧に作ったが見えない図面よくある
見て使える図面を

北垣：事務局 千田先生の意見に対して

名古屋城：修正して次回出す

宮武：カルテ凡例 51 ページ 最大、最小、標準 の意味と、つける意図は

名古屋城：目視によるおおざっぱ 参考程度

宮武：いるか

千田：青三角は

名古屋城：標準

宮武：いるか？何かいいことあるか
一番小さいやつ、大きいやつ、標準
図を見ればわかる

西形：57 ページ 石垣評価
基本的には耐震マニュアル 予備診断に相当する？

名古屋城：そう

西形：予備診断 点数をつける形
将来的にはどうするか 予備診断と連携するのか
私はどちらでもいい

名古屋城：58 ページ 1.2 予備診断相当
名古屋城独特 3.4
このあと評価していこうと考えている

千田：57 ページ 石垣評価
歴史的石垣の位置づけ 特徴
「天下普請で作られた」 積み方 大名でバリエーションがある
修理がある オリジナル 刻印多数
それらの次に評価が来るのがきれいでは
北垣先生 石垣そのものを伝統的に評価して 通じるものがある

歴史的価値を持っている石垣だから、こう保存・修理していこう という話になると思う

名古屋城：4章冒頭に書くか検討
タイトルを変更するか

北垣：だいたい整理ついてきた
報告をお願い

14:40

名古屋城：建造物

東南隅櫓、西北隅櫓レーダー探査結果

直下石垣4面 図3 建物直下はできず できるかぎり直下

結果2ページ以降 図4 黄色線が実際やった

表1 東南 控え長 1メートル

西北 80センチ 改修したら30センチほど短い

建物直下とずれ

勾配はレーダー探査で

築石控え長は仮想的に

両者を比較して基礎診断する

結果中間報告 次回以降を予定

今年度中に基礎診断をまとめた

14:46

北垣：ご意見は

千田：櫓の下は測れないから横で測ったの？

名古屋城：そう

千田：図3 相当な勇気をもって測定したことがわかる ご苦労様です
西北隅櫓と東南隅櫓
御深井丸・本丸と書くと考えの手間がへる

宮武：目視 石垣カルテ ダメージ的には何かあるか
はらみ、ぬけ、ずれ

名古屋城：前々回部会 石垣状況説明した

詰石 割れが 東南隅櫓の 022H 西北隅櫓の 2230
4 面 西北隅櫓北 2240 昭和 47 年改修の影響
ふくらみ 022H はらみだし

宮武：外観目視とレーダー探査を比較して見えたことは
昭和 47 年控えが短い 断裂
背面に空洞があるとか

名古屋城：そういったふくらみ 大きく内部構造が異なるは見えてない

宮武：目的 上の重要文化財 保全をしたい
冒頭の趣旨 台風、耐震対策 次の指針
読み違えると、鉄筋入れろ、パイル入れろに
石垣のダメージを表現しているか
レーダー探査の後の追加調査は

名古屋城：基礎情報を得るためレーダー探査
これで基礎診断実施する その後の調査は決まっていない

西形：基礎診断をされる
基礎診断は石垣の変状は考慮に入らない
示力線 変状の状態 見定めて判定する

名古屋城：基礎診断 中間報告と、基礎診断も示す

北垣：いかがか
探査結果 だいたいご理解いただいた？

宮武：趣旨が読めない
本当の石垣の堅牢性 根石周りから安定しているか調べないと
上だけでやっている 危うさ 何の目的でやっているのか
石垣万全にするには、腰回りにトレンチ入れて調査
石垣「隅角部安定性はわかりませんでした」
徹底するならそこまで検討

名古屋城：こちらの石垣 そういう調査も必要になるかも
全体を見て優先順位を
今年度 重要文化財建造物 修理も

下部も調べる
診断結果にもよる

名古屋城：基礎診断 NG となった場合 専門診断に進む
結果次第細かくやる

西形：基礎診断万が一 NG になれば専門診断
石垣に物理的対策を前提としたもの
ここの石垣 重要文化財が載っている
現実性に乏しい
万が一 NG なんらかの対策を
容易に専門診断に入るべきではない

名古屋城：状態の確認 継続的な観察、モニタリングが必要と考える

北垣：ご努力は分かる
基礎診断 大きな問題 どのように事前に防いでいくか
意味合いが一番強い
現状これを全体としてなさって、課題が出たら
全体は今の形で通してはどうでしょう

千田：全体として建造物保存活用計画を作るため
名古屋市がどう考えているか 「一般の人に公開する」防火・耐震対策 高い対策が求められる

達成するのは難しい

- ・文化財は保存するが、公開しない 限定公開
- ・改善して常時公開

文化財のために石垣対策する城も
そこを聞かされていない 今日の会議で明示されていない
石垣側 「これは覚悟してください」

「安易に専門診断でドーピング」違うよ
名古屋城は櫓をどうしようとしているのか ない
どこに焦点をあわせて議論すればよいのか
私たちに何を求めるのか

「報告した」事実 意味がない

文化庁指針 いろいろな耐震対策 防振対策

建造物部会に石垣部会 誰も入っていない

御深井丸 火災対策 消防車両は入れるからスプリンクラー、初期消火

鵜の首 地震連動火災 通れなくなる
建物の防災対策考えないと、絵に描いた餅
どういう体制か 不備がある
誰か入れろというわけではなく、名古屋城は入れていない 相当する議論 防
災計画を作らないと
頑張ってる

北垣：時間が迫っている
これで報告は終わり

宮武：1点要望
お昼休み直前 西形提案
搦め手馬出 完全復元 過去ないのではないか
これだけのもの 10年20年 変状するのは当然
モニタリング どう変化するか 全国修復の参考事例に
予算化が必要 文化庁に整備後の経年的メニューはあるか

小野：今はない

宮武：名古屋市金持ち 布団籠は自前でやる
モニタリングも自前でできる
積極的にやっては

北垣：宮武先生重要な指摘
伝統技術を進める ぜひ文化庁に検討を

千田：発掘現場は説明あった
ほかの城 若い学芸員 可能な限り加わって、直接発言はしないが、
仕事で何を改善すべきか、高く評価するか
次は調査、研究していこう
正規だけでなく嘱託学芸員まで参加 史跡関わっている
「普通では経験できない素晴らしいことを勉強させてもらっている」
手続き的手順 資料 なるほど委員会資料はこういう風に作らないといけないか
会議出ること勉強する
名古屋城 関係の時は出てくるが、関係ないと帰る
分野が違ふと「考古で何をしているかしらない」
「今日は何をしに来たのか」
他の同様の城跡 名古屋城総合事務所、調査研究センター 劣っているところ、

弱点

かねがね申し上げているが、改善されていない

今日を最後に、業務の都合があると思うが、現場は中止 学術系は必ず出席して学んで 要望する

北垣：大変厳しい要望 善処いただけるところはして

15：10

姫野：ありがとう

オブザーバーから

小野：慎重審議ありがとう

事務局ありがとう

長い名古屋城整備の歴史 積み上げるのが必要

経験上 整備の道筋 1本道ではない たくさんの選択肢 あと1歩 実現に至らない

結果から見れば無駄道かも？ 現在進行形しっかりやっていると最後につながらない 経験

たくさん検討を踏まえたベター、最適解 次世代に保存活用を示して

ひきつづき検討

姫野：以上で終わり 今後に生かしたい

15：13